大阪大学歯学部同窓会

女性会員アンケート結果

（平成 25 年 11 月実施分）

平成 26 年 5 月

女性会員アンケート結果報告

会務諮問委員会　女性会員検討 WG

中　山　靖　子（30 回生）
佐々木　有　美（42 回生）
水　野　亜　美（58 回生）

現在の大阪大学歯学部同窓会は会員の 20％が女性であり、ここ十年では卒業生の約 40% を占めている。しかし、女性歯科医師が現役で働き続けるためには、結婚、出産、育児、介護などの生活スタイルの変化に伴って生じる様々な問題とうまく付き合っていく必要がある。そのため、女性会員が歯科医師として生涯にわたって仕事を続けていくために、同窓会としてどのようなサポートができるかを検討することを目的として、平成 25 年 11 月に会務諮問委員会女性会員検討 Working Group（WG）が、女性会員の現状を把握するためのアンケート調査を行った。

以下にその結果を報告する。

【対　象】

大阪大学歯学部同窓会に所属する女性卒業生 670 名にアンケートを送り、回答の得られた 268 名（回答率 40％）の結果をまとめた。アンケートは無記名で回答は選択方式とし、一部の質問で記入方式とした。

【結　果】

図 1　回答者の年代

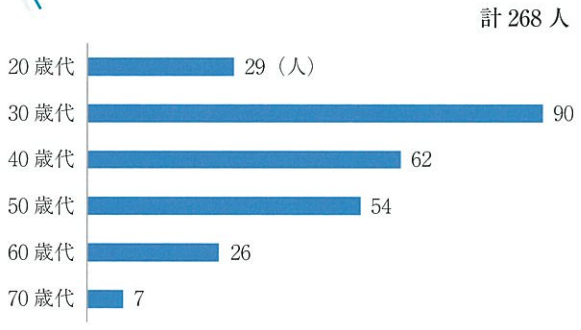


図 2　配偶者の有無

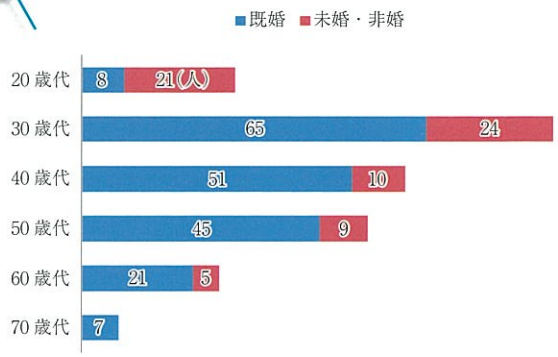


図 3　配偶者の職業

配偶者の職業に関して年代別にみると 40 歳代以上では医療関係（歯科医師、医師）が多く、30 歳代では 65 名中、歯科医師が 28 名（43％）、次いで会社員が 24 名（37％）であった。

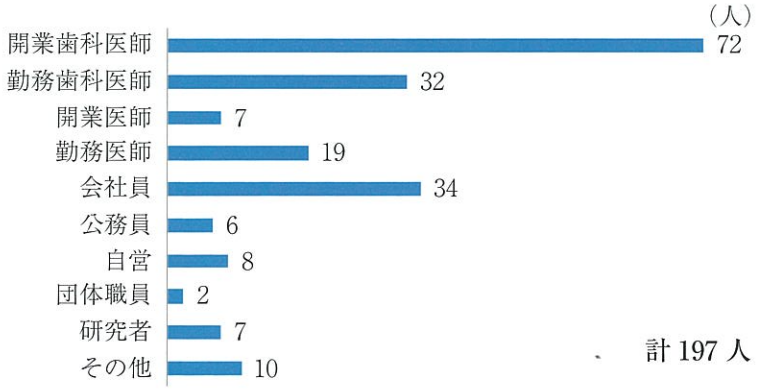
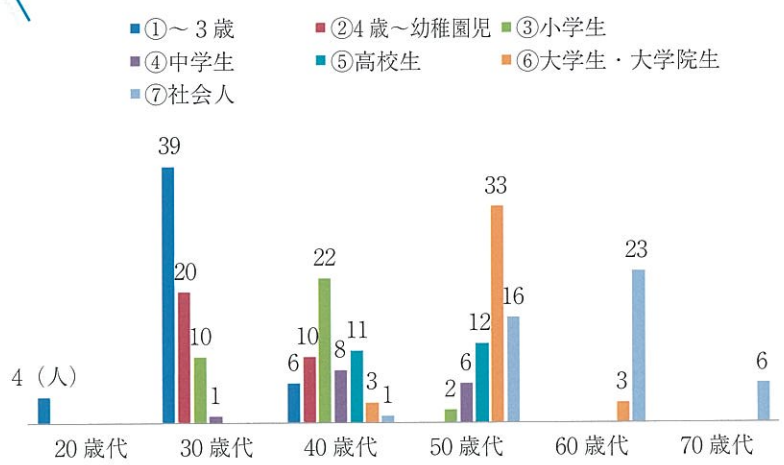
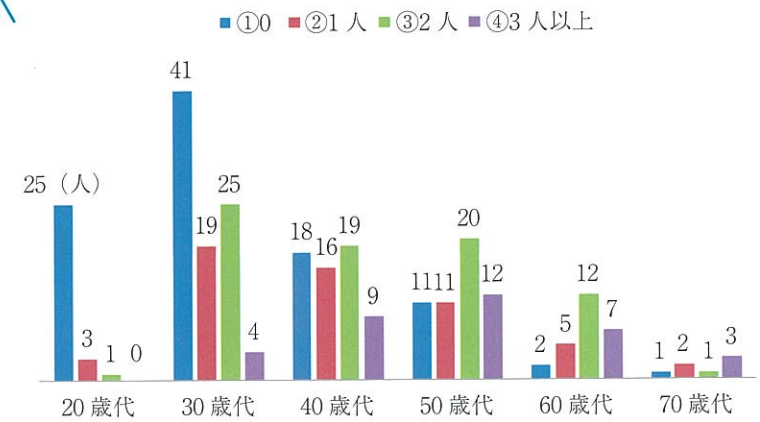


図4　子どもの年齢



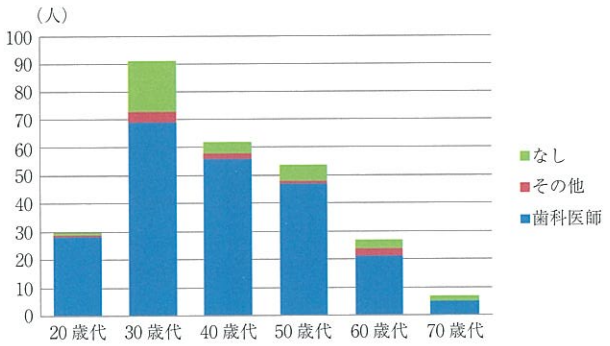
20歳代では子どものいる人は少なく、30歳代では未就学児の子ども、40歳代では小学生以上、50歳代では大学生の子どもを持つ人の割合が高い。厚生労働省が調査した2013年のデータでは第一子出産時の母親の平均年齢は30.3歳であり、比較すると本会員は6年制の大学を卒業しているが遅くはない。

図5　子どもの数



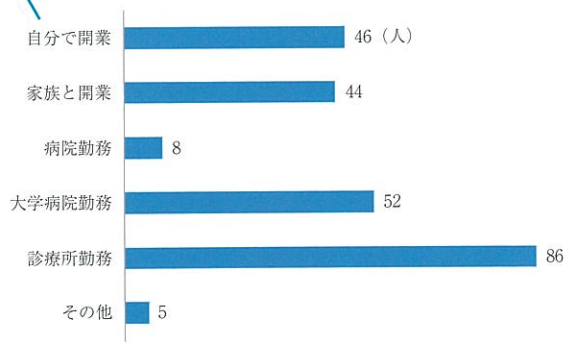
国立社会保障・人口問題研究所が2011年に発表した『出生動向基本調査』によると夫婦の最終的な出生子ども数は1.96人であった。女性会員もほぼ平均的であった。

図6　現在働いていますか（複数回答可）



歯科医師として働いている人が226名、働いていない人が34名、その他の仕事（衛生士学校・技工士学校・国家試験予備校などの講師、特別養護老人ホーム勤務など）をしている人が11名であった。働いていない人は30歳代で最も多く18名であった。多くの人が働いているという結果であった。

図7　勤務場所



自分で開業している人は20歳代で1名、30歳代で3名、40歳代で13名、50歳代で19名、60歳代で7名、70歳代で3名であった。70歳代では夫婦で開業していたが配偶者が亡くなり一人で続けている者が含まれる。診療所勤務は30歳代で42名、40歳代で22名、50歳代で9名、60歳代で1名であった。20歳代は回答者36名中22名（61%）が大学勤務、11名（33%）が診療所勤務であった。

図8　担当する科（複数回答可）

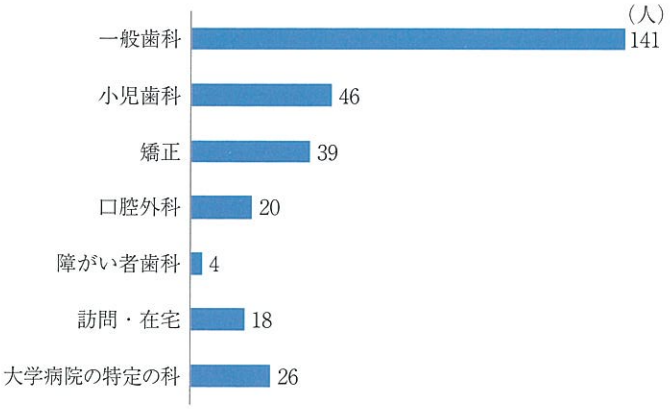
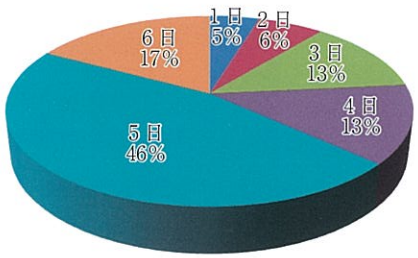
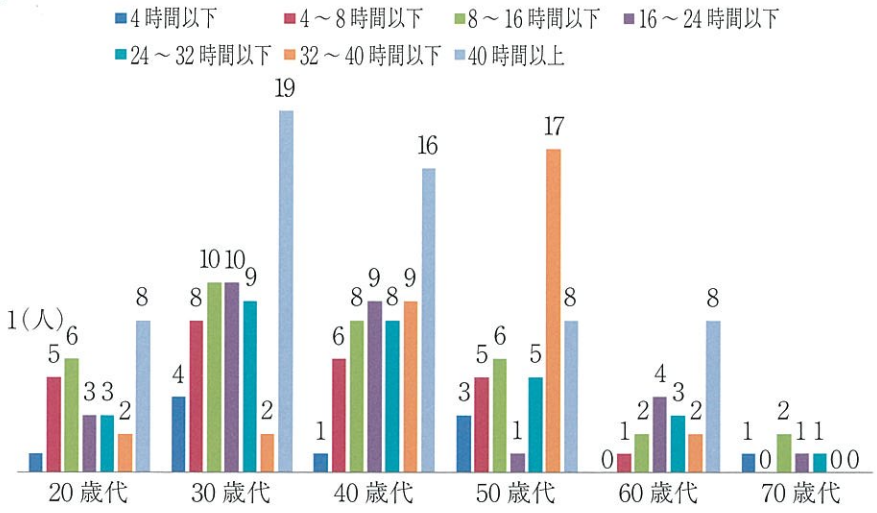


図10　1週間の診療日数



20歳代では大学勤務が多いため診療日数が3日以内の人が35％、30歳代、40歳代では開業医か診療所勤務が多いため週に4日以上勤務している人の割合が多い（30歳代で73％、40歳代で81％）。

図9　1週間の診療時間



20歳代では「経済的な理由」のために働いている人が48％であるのに対し、30歳、40歳、50歳代は「仕事が好きだから」働いている人が多い（30代；40％、40代；62％、50代；46％）。「その他」の理由として30歳代、40歳代で『社会に貢献したい』『子育てばかりだとストレスが溜まるから』などがあった。

図11　仕事をする理由（複数回答可）

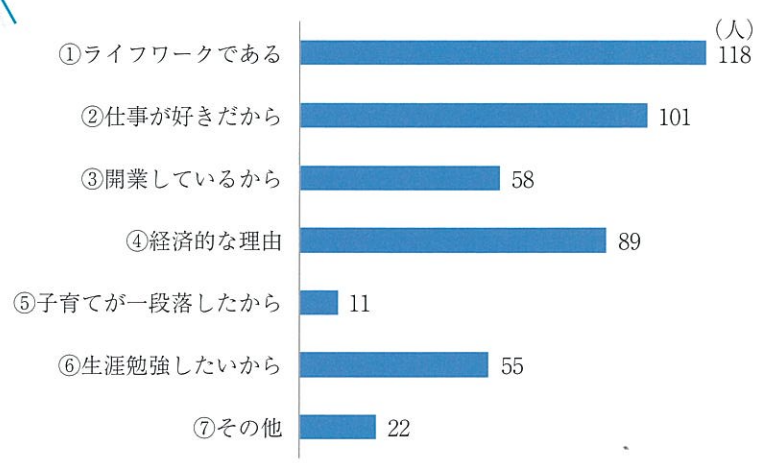
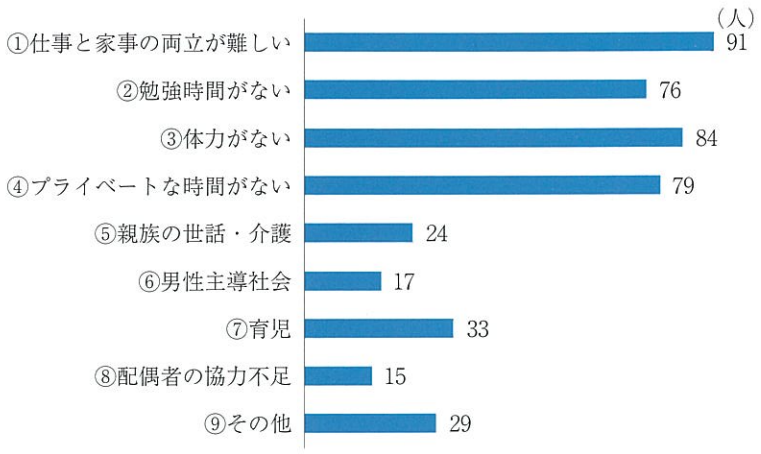


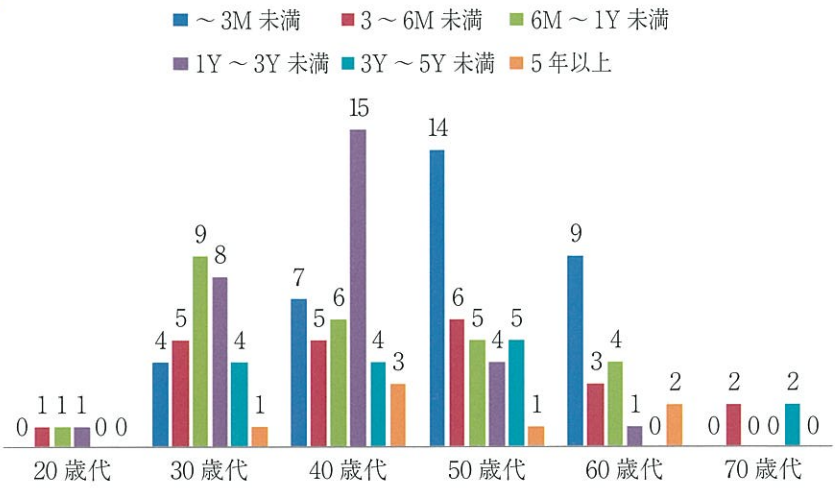
図12　仕事上の悩み（複数回答可）



すべての年代において「体力がない」は高い回答者数であった。30歳、40歳代は「仕事と家事の両立」が多く、次いで「勉強時間がない」が多かった。30歳代では「プライベートな時間がない」が多かった。

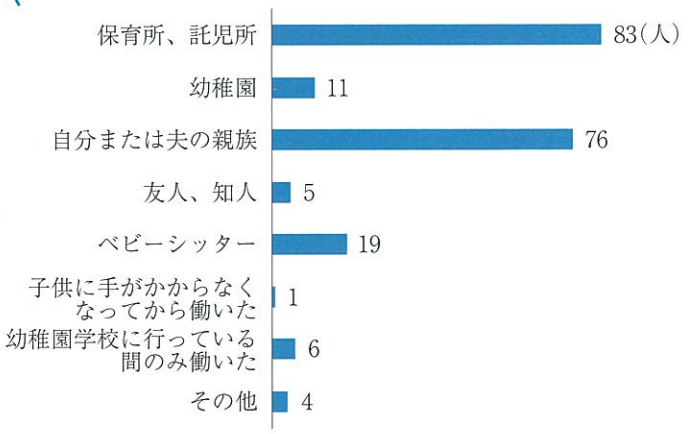
「その他」では20歳代、30歳代で『結婚や出産の時期を決めるのが難しい』、40歳代で『医院のスタッフや経営のこと』、『もっと高いレベルの治療がしたい』、『勤務先で任されているスタッフや新人ドクターの教育』、『開業のノウハウ』などの具体的な回答があった。

図13　出産後の復帰時期（年代別）



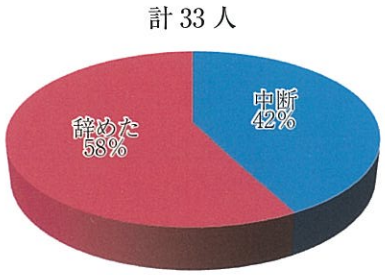
50歳、60歳代では出産後3か月未満で仕事に復帰する人が最も多かったが（50代；40％、60代；47％）40歳代では1～3年未満で復帰する人が37％と最も多く、30歳代では6か月～1年未満が29％と最も多かった。

図14　仕事再開時の子どもの世話（複数回答可）



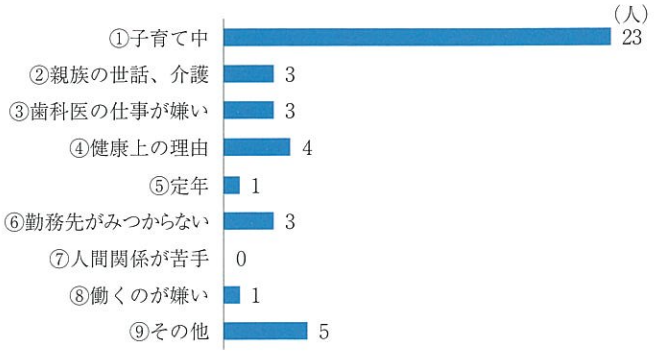
仕事をしている間の子どもの世話については保育所、託児所に預けている人、両親にみてもらっている人が多かった。ベビーシッターを利用している者は40歳代が最も多く7名であった。幼稚園は預かり時間が短く、延長預かりがなければその後、別の者にみてもらう必要がある。夫婦で開業していれば、子どもの帰宅時間に仕事を終えることができるが、勤務医では難しく、やはり両親の協力があれば有難い。「その他」では『職場に連れて行き、みていた』（50歳代開業医）という回答があった。

図15　仕事をしていない人の分類



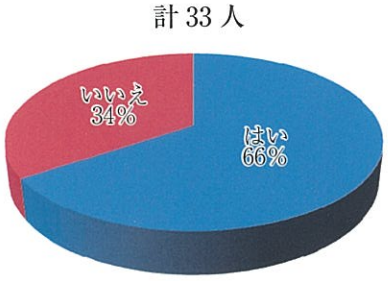
辞めた人は20歳代で1名、30歳代で4名、40歳代で3名、50歳代で6名、60歳代で3名、70歳代で2名であった。

図16　仕事をしていない理由（複数回答可）



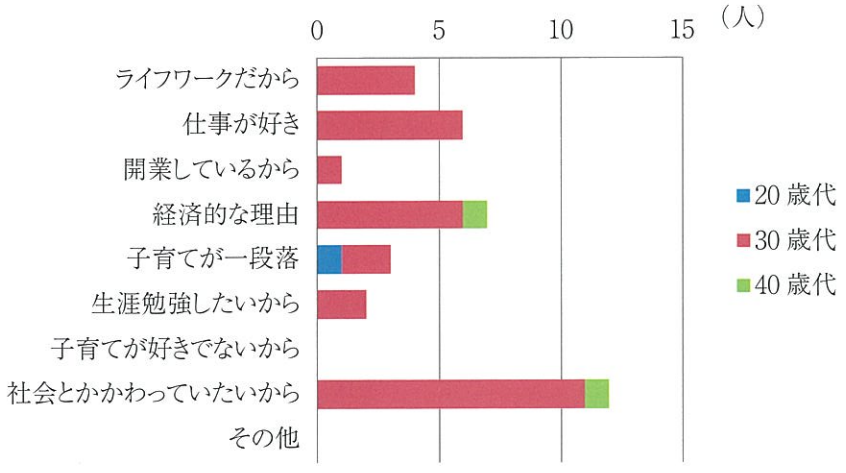
仕事をしていない理由としては「子育て中」が最も多い。「その他」の理由として『歯科医としての仕事より、主婦としての仕事の方が楽しい』（子ども3人の40歳代）などがあった。

図17　仕事に復帰したいですか



「いいえ」と答えた人は20歳代と30歳代では0名、40歳代で2名、50歳代で5名、60歳代で3名、70歳代で1名であった。

図18　仕事に復帰を希望する理由（複数回答可）



現在子育て真最中の30歳代では仕事に復帰する意欲が高い。

図19　仕事に復帰するにあたっての不安（複数回答可）

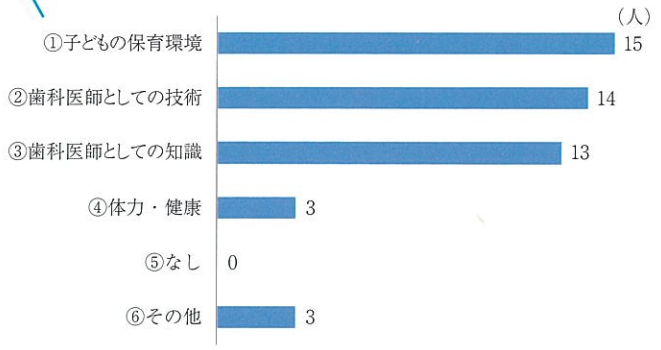
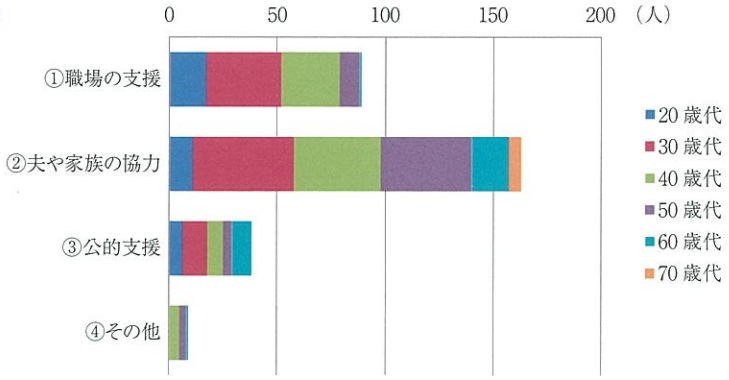


表1　出産後の復帰予定

6か月～1年未満	1名
1年～3年	2名
3年～5年	1名
5年以上	1名

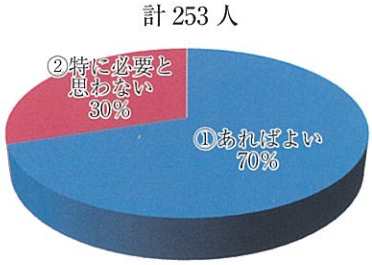
「子育て中」と答えた23名中、回答者は5名であった。なかなか復帰予定はたっていない。

図20　結婚・出産後も仕事を続けていくために必要なことは何か



「その他」として『男性歯科医師の意識改革』があった。

図21　仕事復帰のための復帰プログラムがあれば良いか



「あればよい」理由として『ブランクを埋めるための新しい知識と技術の習得が必要』、『復帰する時不安なので、復帰プログラムがあればスムーズに復帰できそう』『知識や技術のみならず、経験者の体験談の情報交換をすれば良い』などの意見がある一方、「不必要」と答えた理由として『個々のレベルやニーズも違うので同一のプログラムでは無理』、『勉強の機会は他にもあるから』、『特別何もしなくても復帰できるのでは』などがあった。

図22　未婚の人への質問；結婚後も仕事を続けたいか

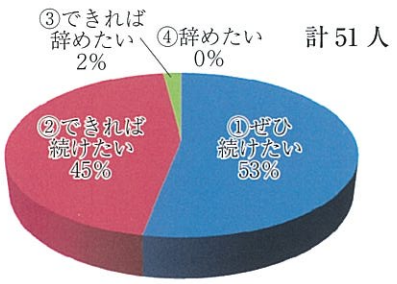
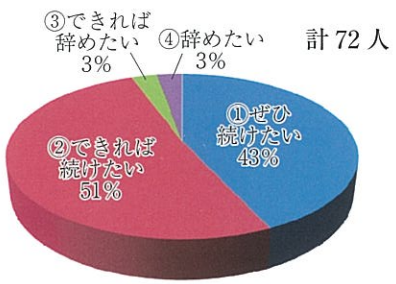


図23　出産後も仕事を続けたいか

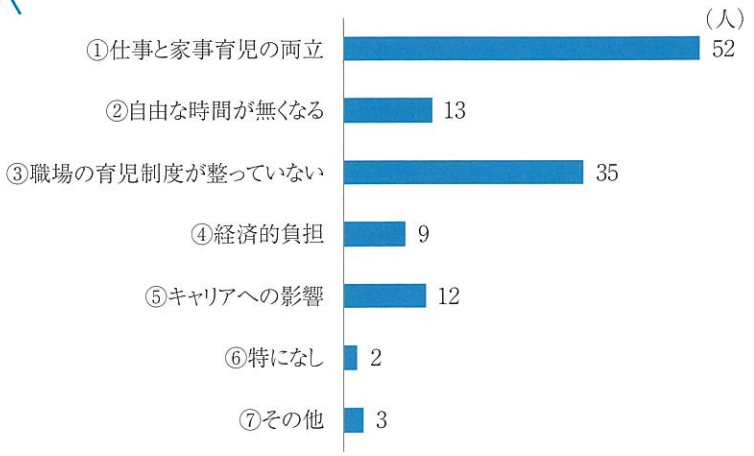


結婚後も仕事を続けたいと思っている人が98%であるのに対し、出産後も続けたいと思っている人は94%であった。

20歳代、30歳代では「仕事と家事の両立」に不安を感じている人が多い。

「その他」としては『子どものあずけ先の確保』、『体力的な不安』などがあった。

図24　仕事をしながら出産することに対する不安（複数回答可）

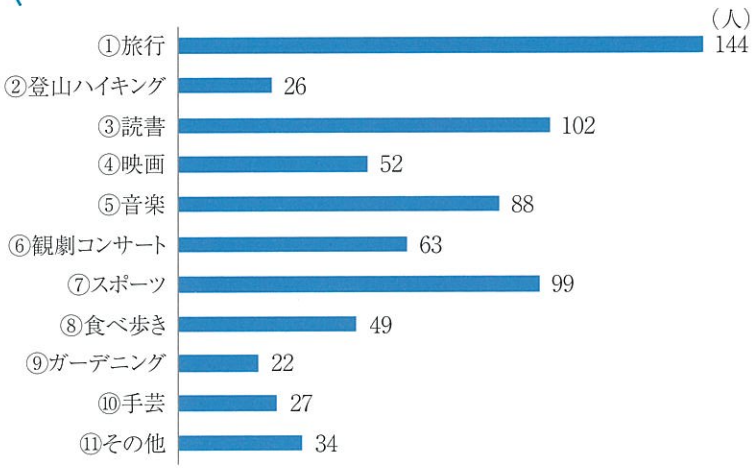


世代による特徴はなくどの世代もさまざまな趣味をもっている。

スポーツではゴルフ、テニスが多かった。少数ながら、ヨガ、乗馬、ダンス、スキューバ等も挙げられた。

「その他」としては『料理』などがあった。

図25　趣味（複数回答可）



「その他」として『帰宅時間が遅い』『時間がない』『余裕がない』『1人で開業するための準備、資金繰り』『専業主婦を許してくれない世の中の風潮』『視力の衰え』『リタイアの時期』などの具体的な回答があった。

図26　今困っていること（複数回答可）

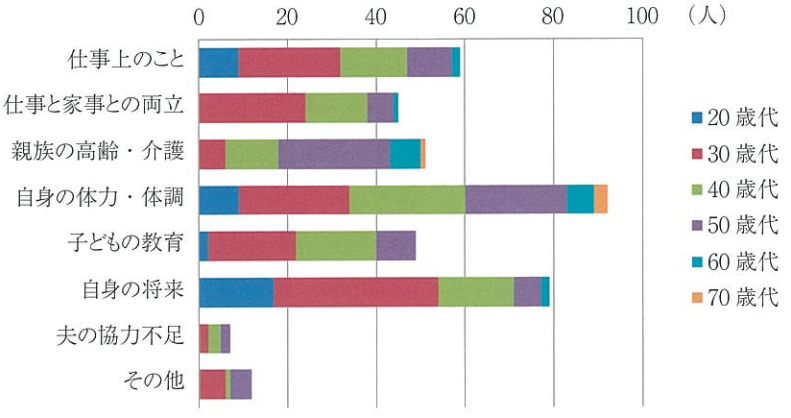
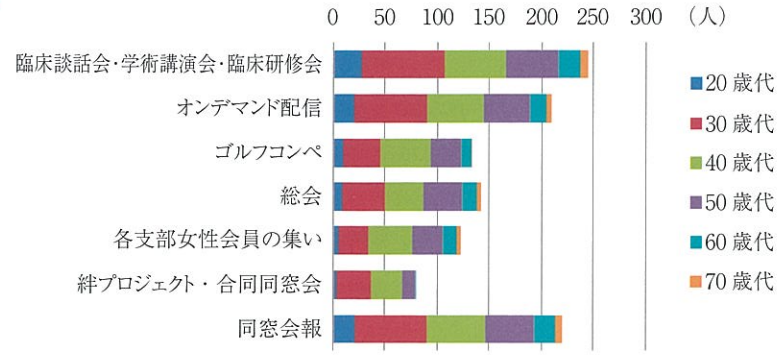
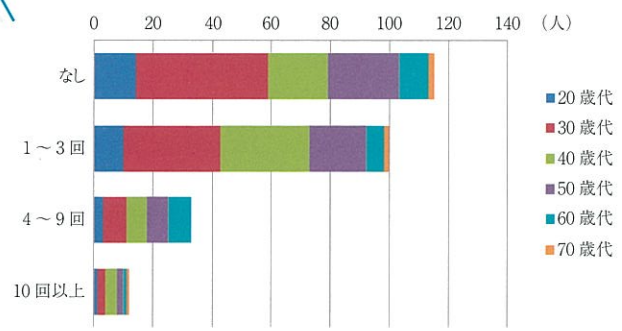


図27　同窓会の活動で知っているもの（複数回答可）



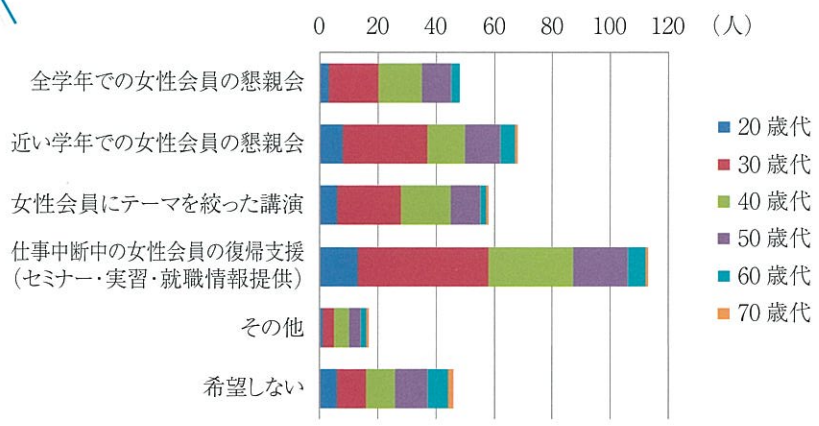
臨床談話会等の講演会やオンデマンド配信は認知度が高い。しかし図28の結果からもわかるように実際は参加者は少ない。「各支部で行われている女性会員の集い」や「絆プロジェクト5学年合同同窓会」については認知度が低かった。

図28　ここ5年以内での同窓会の活動への参加回数



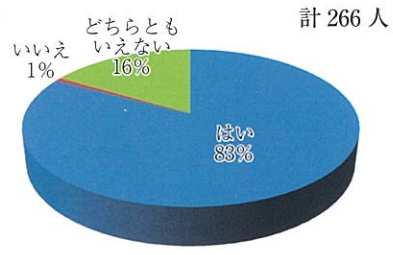
ここ5年で同窓会の活動に参加していない人は約44％であり、高い割合を示した。

図29　女性会員に対する同窓会主催の企画として望むもの（複数回答可）



「その他」の要望として『臨床談話会の時、チャイルドルームを併設してほしい』、『子連れ許可、または預かり保育のある女性会員の懇親会』、『出産前後休職中、体調不良時の代診ドクターの斡旋』、『女性1人で開業できる支援プログラム』などがあった。

図30　阪大歯学部に入学してよかったか



「はい」と答えた理由は『素晴らしい友人、先輩との出会い』、『素晴らしい教育』、『やりがいのある仕事につけた』『研究者としても働くことができる』、『社会的信用度が高い』であった。

同窓会に対する意見、要望については、他の質問よりも記入者が多く、その内容を分類すると以下のようになった。

同窓会の活動に対して

・大阪から離れて暮らしているため、オンデマンド配信はとても利用しやすい
・強制参加を強いられるプログラムはやめてほしい

同窓会費について

・夫婦で同窓会員の場合は名簿や送付物は1人分にまとめ会費も割引システムにしてほしい
・休職、離職中は同窓会費が負担になるので、会費の減額、免除希望
・会費について支部との2重に疑問、大学内外格差に疑問

同窓会報、名簿について

・夫婦で同窓会員だが、同窓会名簿、同窓会報など2冊もいらない。名簿は特に処分に困る
・名簿はデータで送って欲しい

新たな試みとして同窓会に対して望むこと

・託児所つき、または子連れでも参加可能な講演や実習があれば参加してみたい
・パート勤務募集情報（求人サイト）、妊娠、出産、育児休暇中の代替ドクターの紹介、登録サービス、費用の共済制度などの希望
・ネットでのネットワーク
・女性会員向けの同窓会報
・卒後ライターのように相談できるシステム
・定年後、産休の人の代診希望
・他の職業で成功した人の講演会の開催希望
・女性会員の集い、女性を取り巻く問題について話し合いができる場を希望
・出産・育児で休職中の会員でも参加できる在宅で可能な同窓会主催の企画
・ご子息、ご息女の婚活イベント希望

今回のアンケートについて

・アンケートはオンラインでして欲しい
・このような活動が始まったことが嬉しい
・女性が増えているのに女性限定にするのはかえって差別で疑問。子育て支援等は社会全体の問題、同窓会で取り上げる必要はない

その他

・在学中から同窓会の有用性を説明する必要がある
・子どもがいないので女性会員の集まりは肩身が狭い

【総　括】

今回のアンケート調査は女性会員670名にアンケートを送り、回答を依頼した。回答者は268名（回答率40%）であった。30歳代が90名と最も多く、次いで40歳代が62名、50歳代が54名であった。アンケートの結果から、これまで多くの女性会員が結婚、出産、育児、介護などをそれぞれ経験し、いろいろ悩みながらも歯科医師として、誇りを持って仕事を続けてこられたことがわかった。また、多くの若い会員もこれから同様に仕事を続けていかれるのだろうと思われた。

たくさんのご意見を頂き、その中でも特にご要望の多かった講演の際の託児施設について検討し、平成26年度の臨床談話会からチャイルドルームが開設されることとなった。今後も、その他のご意見やご提案も検討していきながら女性会員の方々がさらにご活躍できる環境を整えることが重要と思われた。

アンケートにご協力頂きました女性会員の皆様に心より御礼申し上げます。

OSAKA UNIVERSITY